

JAWRO 企画公演の座長を務めて

滋賀県立成人病センター放射線治療科
山内 智香子

去る 12 月 12 日、「遺伝性乳がん・卵巣がん症候群と遺伝カウンセリング」をテーマに JAWRO の企画公演が開催されました。乳癌を専門としているということで、座長を務めさせていただきました。この日は第 27 回日本放射線腫瘍学会の二日目に開催され、女性のみならず多数の方が参加してくださいました。

講師には聖路加国際病院遺伝診療部 看護師・認定遺伝カウンセラーの青木 美紀子先生が招かれました。青木先生は看護師であり、かつ認定カウンセラーとしてもご活躍の先生で、出生前検査・遺伝子検査などのカウンセリング、遺伝性疾患や先天異常の患者さんや家族のケアに関わっていらっしゃいます。多岐にわたる分野でご活躍中ですが、今回は「遺伝性乳がん・卵巣がん症候群 (HBOC)」を中心にご講演いただきました。HBOC は遺伝性腫瘍の中では頻度が高く、また、アンジェリーナ・ジョリーの予防的乳房切除術に関する報道などで一般の方にも広く知られるようになりました。今回の講演では、遺伝性腫瘍の基礎知識からわが国の現状と問題点、聖路加国際病院におけるカウンセリングの実際などについて詳細かつわかりやすく解説してくださいました。わが国の遺伝性腫瘍や遺伝カウンセリングを取り巻く状況は、欧米のみならず一部のアジアの国にも一歩 (いえもっとかもかもしれません) 遅れをとってしまった感があります。遺伝子検査にかかる費用もわが国では約 25 万円、迅速検査を依頼するとさらに 3 万円だそうです。遺伝カウンセリングを受けられる施設は非常に限られており、受診するだけでもたいへんな患者さんも多いことでしょう。また、まだまだ正しい情報の発信も不足していると思います。「遺伝カウンセリング」という言葉自体、まだ一般の患者さんにはよく理解されていないのが現実です。青木先生のご講演はたいへんすばらしいものでしたが、私が最も印象に残ったことは、カウンセリングの初回予約が入った時点で事前にご本人にお電話されるということです。初めてカウンセリングを受ける方は、どんな人が担当してどんなことを聞かれるのか、あるいはどんなことを相談すればよいのかたいへん不安に思われていることでしょう。その気持ちを想像して事前にお電話されているとのこと、心遣いに感銘いたしました。青木先生のような方が益々活躍されて、遺伝性腫瘍を取り巻く環境が少しでも早く整うように期待しております。

末筆になりましたが、このような座長ならびに報告の機会を頂きましたこと、会長の播磨先生はじめ関係各位に心より感謝申し上げます。